

確かな学力を支える「学びに向かう力」の育成

～読解力の向上を基盤とした学習指導を通して～

平成29年度 大津町小中学校共通実践事項

- (1)話し手に体を向けて聞く (2)「めあて」と「まとめ」の明示
(3)家庭学習の習慣化 (4)県学力調査に向けた課題克服プリントの計画的活用

7月3日(火)
米多

5年1組 算数科「合同な図形」

○ 授業の概要

導入では、「この三角形と合同な三角形をかきましょう」と投げかけたことで、「どうやってかくのだろう」という課題意識・学習意欲が子どもの中に生まれた。三角形を薄い紙に写し取る作業をする中で、紙がずれ、うまく写し取ることのできない子どもの困りを課題として全体に提示した。

展開では、残りの頂点の決め方をペアやグループで見つけ、全体で共有した。自分が考えたやり方以外の方法についても理解できるようにした。

まとめでは、板書された子どもたちの考えをもとに、共通したかき方を見つけ、合同な三角形のかき方を短い言葉でまとめた。

○ 城先生の自評より

- ・学びに向かう力を育成するために、板書を軸に学習した内容を自覚させることを手立てとした。
- ・まとめを教師が行ったが、子どもにさせた方がよかったか？(時間が足りなくなると思うが)
- ・説明できない子にはもう一度やらせたい。

○ 先生方から

- ・説明をさせるのが難しいため、「まず」「次に」等のキーワードを提示してあげるとよいのでは。
- ・まとめは子どもの思考を教師が収束しながら整理した方が、子どもたちは理解しやすい。
- ・めあてがシンプルで、ポイントを整理して進んだので、子どもが何を考え、何をすることがよく分かって、子どもがよく思考していた。
- ・子どもの思考を板書で整理されていたので、思考が繋がった。
- ・合同な三角形のかき方は6年生の拡大図・縮図につながる重要な学習。

合同な図形の定義や、あと頂点Aだけを決めると良いことなどを徹底し、作図は子どもたちの思考を大切に進め、授業にメリハリがあった。板書が整理され、子どもの思考が深まっていた。

